

# II. 調査結果

◎work◎life◎  
balance innovation

## ① | 回答者のプロフィール

ここでは、回答者のプロフィールについて、性別、職種、年齢等の基本属性についてまとめる。

### 性別

Q15では回答者の性別を聞いている。その結果、図1のように男性が48.7%（703人）、女性が51.2%（739人）とほぼ半数ずつであった。性別に関して無回答、また不正回答の人は、87人いた。4回の調査では、図2のように、各年度とも、ほぼ男女半分ずつという結果になっている。

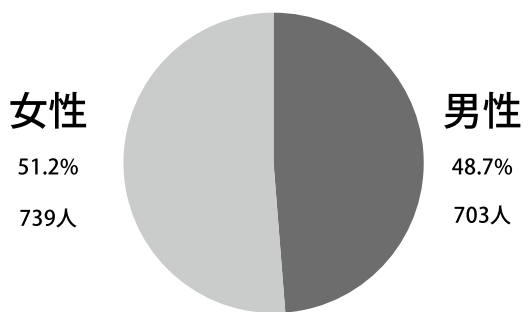


図1 男女割合

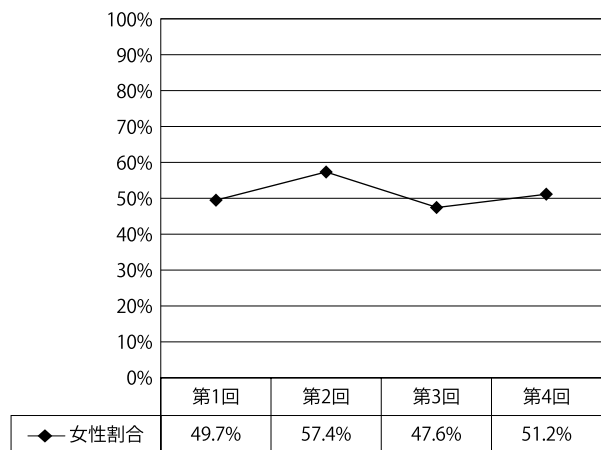


図2 女性割合の変遷

### 所属キャンパス・所属部局

Q1～2では所属キャンパスと所属部局を聞いている（図3・図4）。山形大学は、山形市3つ、米沢市1つ、鶴岡市1つにキャンパスが分散しているが、医学部、附属病院、附属特別支援学校等がある飯田キャンパスが48.4%（727人）と、回答者の約半数を占めた。次に、工学部等のある米沢キャンパスが25.5%（384人）と約4分の1を占める。残りの4分の1を、人文学部、地域教育文化学部、理学部、基盤教育院、事務局等がある小白川キャンパス、農学部等のある鶴岡キャンパス、附属幼稚園、小学校、中学校等がある松波キャンパスで分ける結果となった。

所属部局も当然ながら所属キャンパスとほぼ対応する形になっており、所属人数が多い、医学部・病院と工学部の回答者が多い。

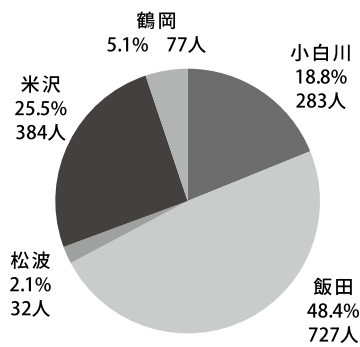


図3 回答者の所属キャンパス

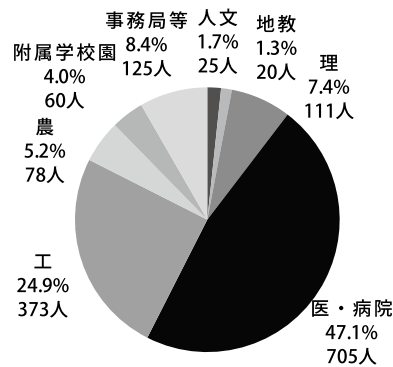


図4 回答者の所属部局

図5は、回答者の所属キャンパスを調査回毎にまとめたものである。調査対象が教職員のみであった第2回は特に飯田キャンパスが多くなっているが、その他はどの回も飯田キャンパスが半数程度、続いて米沢、小白川、鶴岡、松波と安定している。

キャンパス別の男女の割合を示したのが図6である（性別無回答の人は除く）。飯田キャンパスでは女性が多く、70.9%と女性が7割以上を占める。松波ではほぼ男女がほぼ半数、小白川、鶴岡と男性が多くなり、米沢キャンパスでは男性が8割以上を占める。

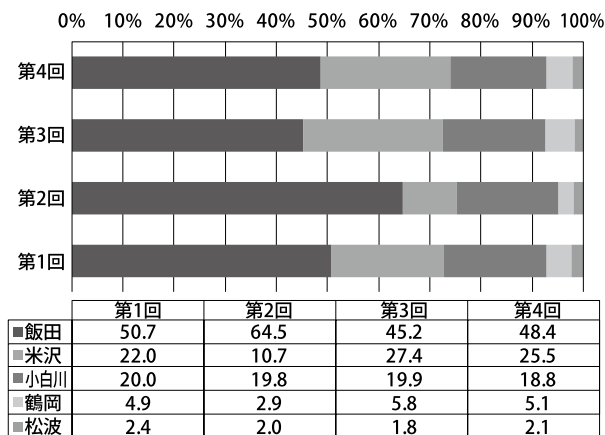


図5 回答者所属キャンパスの変遷

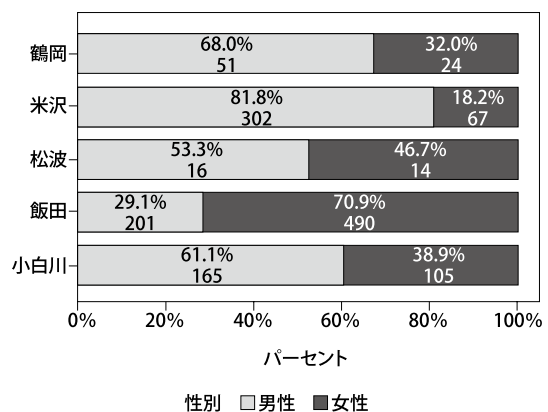


図6 キャンパス別の男女割合

## 職種

Q3(1)では、教職員には職種、大学院生には課程を聞いている。これらは12種類で聞いているが、シンプルに示すため、「大学院生」、「大学教員」、「医療系」、「職員」の4分類にまとめた。

以下の分析で単に職種という際には、12分類ではなく、この4分類の職種を指すこととする。後述するが、毎年の調査で、この4分類で回答者をほぼ4等分でき、職種別の分析をする際にこの4分類が便利であった。具体的には、「大学院生」はQ3(1)で1~3と答えた修士課程、博士課程、その他の大学院生である。「大学教員」は4大学教員と5研究員をあわせたカテゴリーである。「医療系」は10医療職員、11医員及び研修医をまとめたカテゴリーである。また、「職員」は上記に含めなかった全ての職種をまとめたものであり、6事務系職員、7教室系技術職員・教務職員、8技

能系職員、9 附属学校園教員、12その他を「職員」としている。

職種 4 分類の分布をまとめたのが図 7 である。「職員」が多く、大学教員が少ないが、ほぼ 4 つにバランス良く分布している。

図 8 は、回答者の職種を調査回毎にまとめたものである（第 2 回は調査対象者に大学院生が含まれていない）が、4 回とも同じような分布となっている。

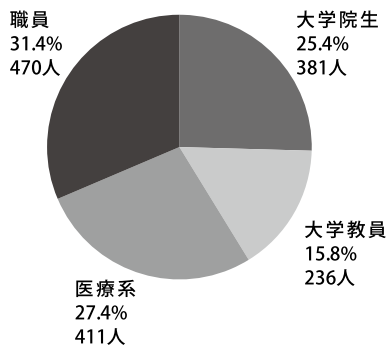


図 7 回答者の職種

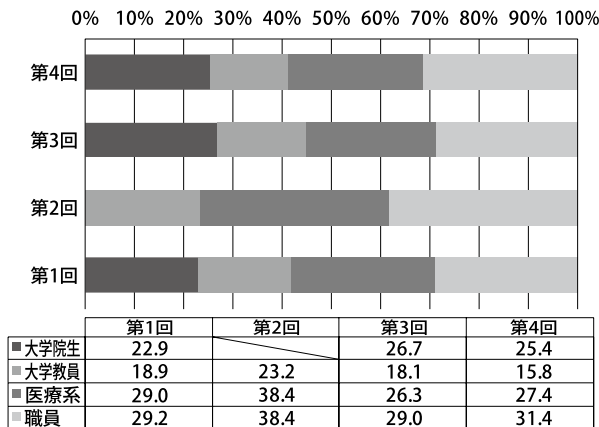


図 8 回答者職種の変遷

職種別の男女割合を示した（性別無回答は除く）のが、図 9 である。大学院生と大学教員では男性が多く、医療系と職員では女性が多い。女性の割合は、大学院生では 19.0%（69人）、大学教員では 19.0%（44人）であるが、医療系では 82.4%（324人）、職員では 57.9%（258人）と半数以上を女性が占めている。

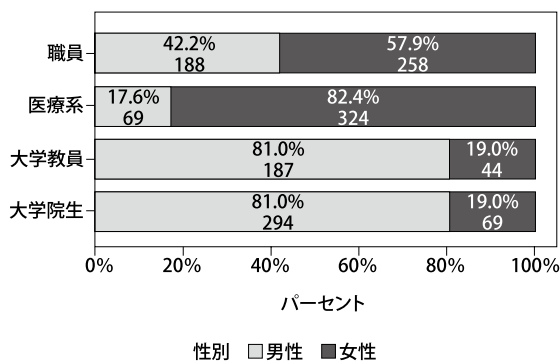


図 9 職種別の男女割合

### 大学院生

大学院生の課程別に人数をまとめたのが図 10 である。その結果、修士課程（修士または博士前期課程）が 89.0%（339人）を占め、博士課程（博士または博士後期課程）とその他の学生は、合計で 1 割程度を占めるに過ぎない。第 3 回と比較すると、今回とほぼ同じで修士課程が大半を占めている。第 3 回でも修士課程が 87.2%（429人）を占め、博士課程とその他の学生の合計は 1 割強に過ぎない（第 1 回は課程を聞いていない、第 2 回

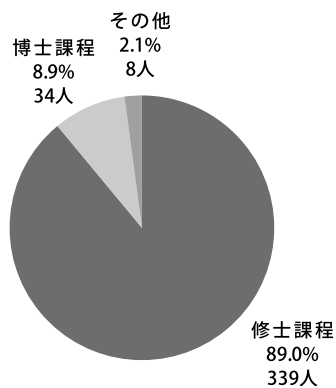


図 10 課程別の大学院生数

は教職員のみが対象)。そのため、本アンケートの大学院生の結果という場合、主に修士課程の大学院生の実態や意見を反映していることに留意願いたい。

さらに、大学院生の課程別の男女割合を示したのが図11である。修士課程、博士課程どちらにおいても、男性が8割を占めている。

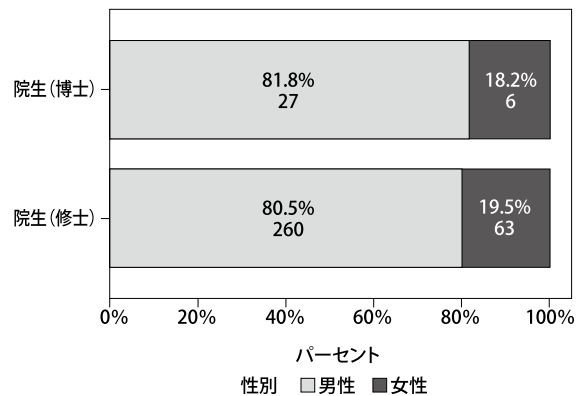


図11 課程別の男女割合

また、大学院生を所属学部別に見ると、下の表3のように、修士課程では、工学部（正確には大学院理工学研究科の工学系）の大学院生が65.1%と大半を占め、理・農を含むいわゆる理系の大学院生の回答が多くを占めている。

博士課程では、工学部とともに理学部、医学部・附属病院、農学部の大学院生が多いが、山形大学では人文学部と地域教育文化学部博士課程がないため、回答者はゼロとなっている。

表3 課程・所属学部別の大学院生数

課程	所属学部						合計
	人文	地域教育文化	理	医・附属病院	工	農	
修士課程	11 3.3%	1 0.3%	58 17.2%	18 5.3%	220 65.1%	30 8.9%	338 100%
博士課程	0 0.0%	0 0.0%	9 26.5%	9 26.5%	13 38.2%	3 8.8%	34 100%
合計	11 3.0%	1 0.3%	67 18.0%	27 7.3%	233 62.6%	33 8.9%	372 100%

### 教職員の勤務形態

Q3(2)では、教職員に勤務形態について聞いている。その結果(図12)、全体の約4分の3の76.0%(807人)が常勤職員となっている。常勤職員以外の定時勤務職員、短時間勤務職員、その他の回答を合わせて約4分の1となっている。

勤務形態については第3回と今回の調査のみで聞いているが、第3回の結果も今回とほぼ同様で、常勤職員が75.4%、定時勤務職員が8.9%、短時間勤務職員が15.0%、その他が0.7%となっている。

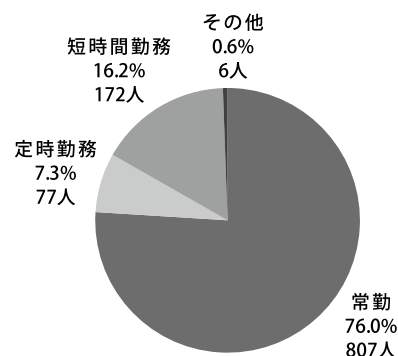


図12 勤務形態

男女別に勤務形態をまとめた図13（勤務形態がその他の人を除く）によると、男女ともに常勤職員の回答が大半を占める（男性91.5%、女性66.1%）。また、男性に比べて女性に短時間勤務職員（24.6%、148人）や定時勤務職員（9.3%、56人）が多い。男性の短時間勤務職員、定時勤務職員は合わせて1割弱となっており、この傾向は第3回の結果でも同様であった。

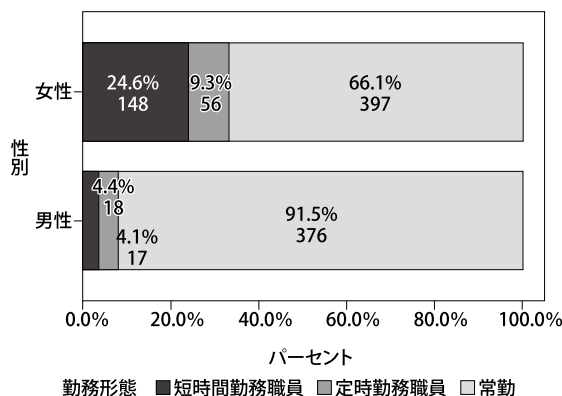


図13 男女別の勤務形態

### 年齢構成

Q15では5歳刻みで年齢を聞いている。図14によると、24歳以下が27.1%（404人）と最も多くを占め、25-29歳という世代も14.3%（213人）と、20歳代の回答者が多いことが分かる。それ以上の世代では、それぞれ10%程度バランス良く分布している。

図15は、回答者の世代を調査回毎に、10歳ごとにおおまかにまとめたものである。毎回、20歳代と30歳代で半数以上を占め、若い世代の回答者が多いことが分かる。

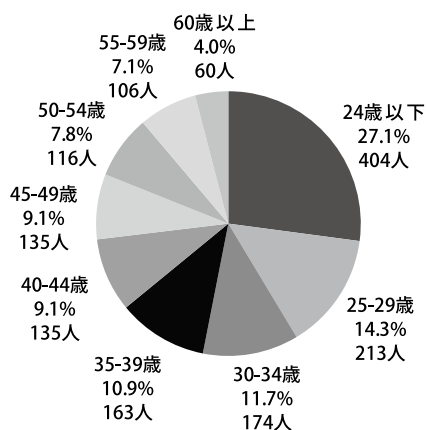


図14 回答者の世代分布

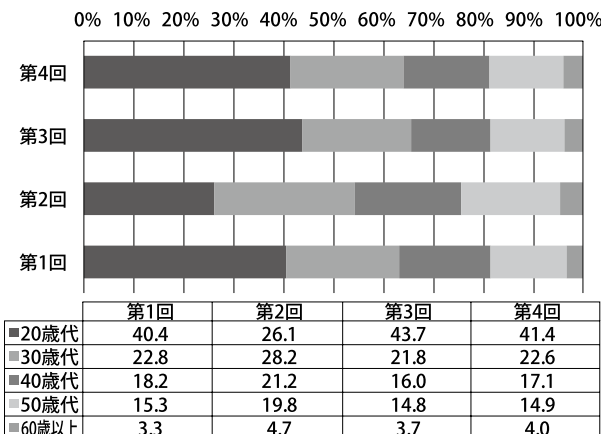


図15 世代の変遷

回答者の平均年齢を求めるためや、また以下の分析で使用するために、5歳刻みの世代を数値に変換した。変換方法は、それぞれの世代の中央の年齢をとって変換した（24歳以下=22歳、25-29歳=27歳、30-34歳=32歳、35-39歳=37歳、40-44歳=42歳、45-49歳=47歳、50-54歳=52歳、55-59歳=57歳、60歳以上=62歳）。

職種と性別に年齢の平均値等を求めたのが以下の表4、図16である。回答者全体では平均年齢が35.8歳、男性は35.4歳、女性は36.6歳である。職種別にみると差が見られ、大学院生は当然ながら若く、平均23.7歳、続いて医療系が34.6歳となっている。職員と大学教員では平均年齢が高く、職員で41.7歳、大学教員では45.2歳となっている。職種の中で男女を比べると、職員で女性が40.0歳、男性が45.0歳と女性が若い傾向が見られる。他は、男女の平均年齢にあまり差は見られない。

表4 年齢の平均値・中央値

	平均値	中央値	標準偏差
回答者全体	35.8	32.0	12.6
男性	35.4	32.0	13.6
女性	36.6	37.0	11.5
大学院生（男女計）	23.7	22.0	5.2
大学院生（男性）	23.1	22.0	3.4
大学院生（女性）	26.3	22.0	9.3
大学教員（男女計）	45.2	42.0	9.6
大学教員（男性）	46.1	47.0	9.6
大学教員（女性）	41.8	42.0	8.6
医療系（男女計）	34.6	32.0	10.2
医療系（男性）	32.8	27.0	10.0
医療系（女性）	35.3	32.0	11.1
職員（男女計）	41.7	42.0	11.5
職員（男性）	45.0	47.0	11.7
職員（女性）	40.0	37.0	10.1

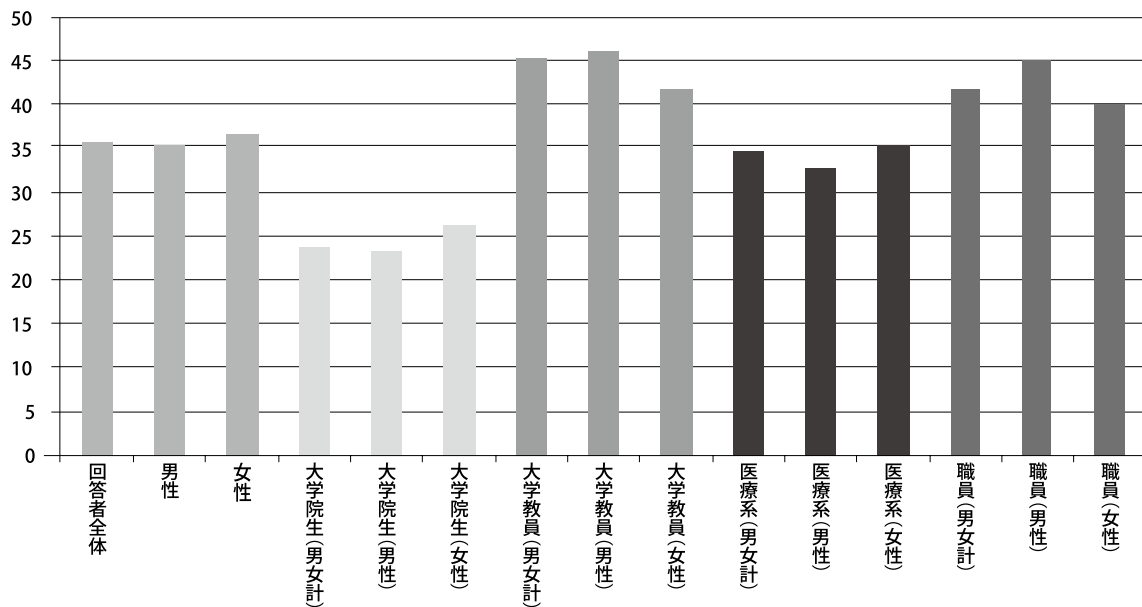


図16 年齢の平均値 (職種・性別)

性別に世代分布を図示したのが図17である。その結果、男女ともに若い世代が多いことがわかる。後述するが、男性の24歳以下が多いのは大学院生、女性の25-29歳が多いのは医療系の職員が多いためである。

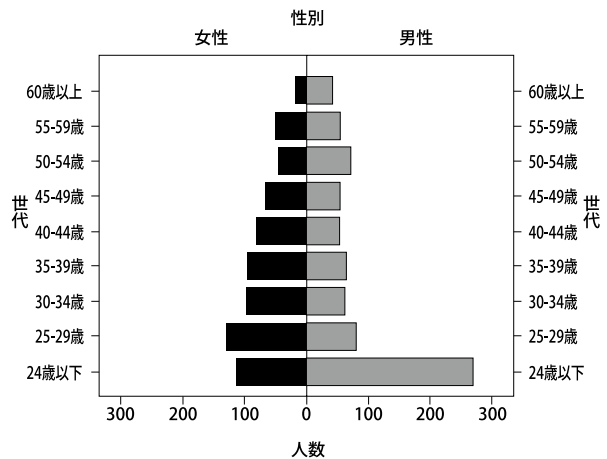


図17 男女別の世代分布

世代分布は、職種によって異なるため、職種ごとに見たのが次の4つの図である。図を見る際には、職種によって回答者数が異なり、軸の最大値が大学院生では300人だが、大学教員では40人など違うので注意してほしい。

その結果、大学院生（図18）では、やはり24歳以下の若い世代が大半を占めており、また男性が多い。大学教員（図19）では、全世代で男性の回答者が多いが、35-39歳、40-44歳の世代では比較的女性がいることが分かる。医療系（図20）では、看護師に女性が多いことから、どの世代でも女性の回答が男性に比べて多い。特に25-29歳をピークに若い世代の女性が多いことが分かる。職員（図21）は他職種より男女バランス良く回答者が分布しているが、女性では30-34歳をピークに比較的若い世代の人が多く、男性は50歳代など年齢の高い世代の人が多くことが分かる。

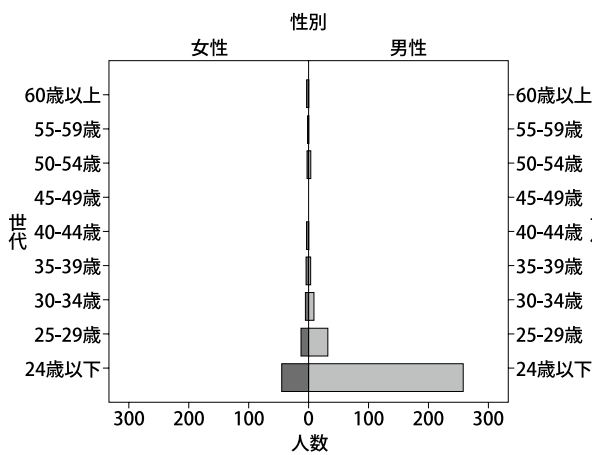


図18 男女別の世代分布(大学院生)

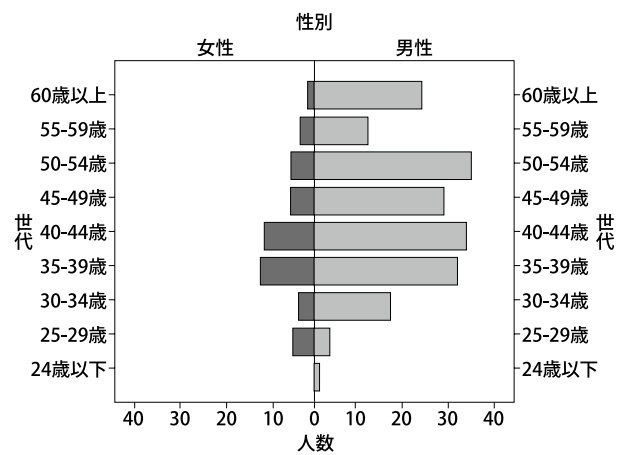


図19 男女別の世代分布(大学教員)

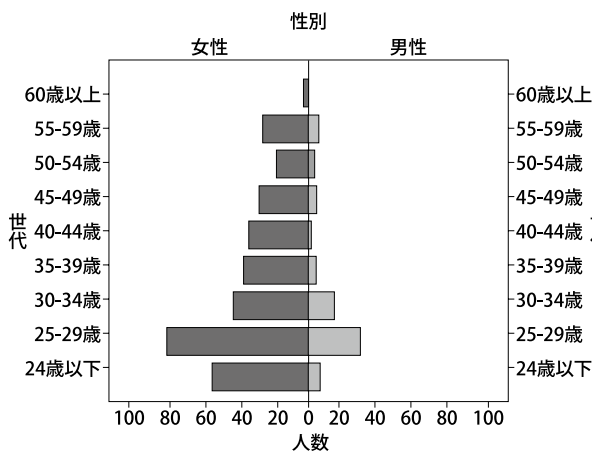


図20 男女別の世代分布(医療系)

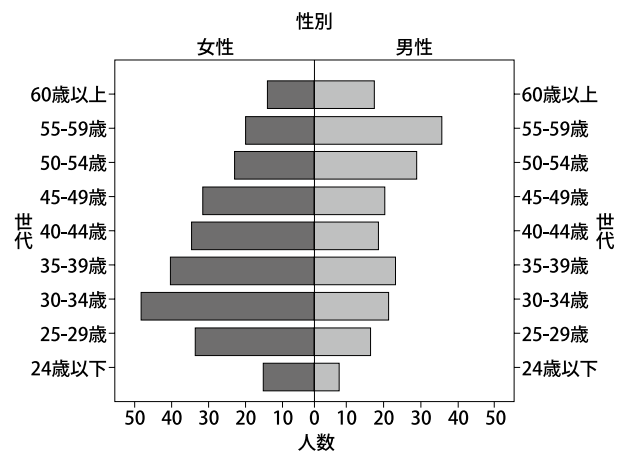


図21 男女別の世代分布(職員)